

be 動詞・一般動詞

【主な学習内容】

- ◎be 動詞を使った現在・過去の文, There is[are] ～. の文
- ◎一般動詞を使った現在・過去の文

学習内容	補足・留意事項など															
<p>① be 動詞の用法</p> <p>☆ be 動詞の現在形…am, are, is 「～である」, 「～にいる[ある]」 過去形…was, were 「～であった」, 「～にいた[あった]」</p> <p>(1) 否定文: 〈主語+be 動詞+not ~.〉 Ken is not in Tokyo now. (健は今, 東京にいません。)</p> <p>(2) 疑問文: 〈be 動詞+主語 ~?〉 💡 Yes / No で答える。 Are you a doctor? (あなたは医者ですか。) — Yes, I am. (肯定) — No, I am[I'm] not. (否定) 疑問詞のある疑問文は, 〈疑問詞+be 動詞+主語 ~?〉 💡 疑問詞のつく疑問文には Yes / No で答えることができない。</p> <p>(3) 〈There is[are] ~.〉で「…に～がある[いる]」の意味。 〈~〉が名詞の単数形の場合→ There is ~. 複数形の場合→ There are ~. 〈否定文〉 There is[are] not ~. 〈疑問文〉 Is[Are] there ~? 〈答え方〉 Yes, there is[are]. / No, there is[are] not. 💡 Here is[are] ~. = 「ここに～がある[いる]」。文の作り方は There is[are] ~. と同じ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • be 動詞の使い分け be 動詞は主語や時制によって変化する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>主語</th> <th>現在</th> <th>過去</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>am</td> <td>was</td> </tr> <tr> <td>you</td> <td>are</td> <td>were</td> </tr> <tr> <td>he, she, it</td> <td>is</td> <td>was</td> </tr> <tr> <td>we, you, they</td> <td>are</td> <td>were</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> • be 動詞の短縮形 is not = isn't / are not = aren't was not = wasn't were not = weren't • There is[are] ~. の書きかえ There are seven days in a week. = A week has seven days. (1 週間は 7 日です。) 	主語	現在	過去	I	am	was	you	are	were	he, she, it	is	was	we, you, they	are	were
主語	現在	過去														
I	am	was														
you	are	were														
he, she, it	is	was														
we, you, they	are	were														
<p>② 一般動詞の用法</p> <p>(1) 主語が 3 人称単数現在(3 単現)のとき, 動詞の語尾に -(e)s をつける。 💡 s, o, ch, sh, x で終わる語→ es をつける。 〈子音字+y〉で終わる語→ y を i に変えて es をつける。 💡 have の 3 単現は has。</p> <p>(2) 一般動詞の現在の否定文 〈主語+don't[doesn't]+動詞の原形 ~.〉 💡 主語が 3 単現のとき doesn't にする。</p> <p>(3) 一般動詞の現在の疑問文 〈Do[Does]+主語+動詞の原形 ~?〉 💡 主語が 3 単現のとき does にする。 答え方は, Yes, ~ do[does]. / No, ~ don't[doesn't].</p> <p>(4) 一般動詞の過去形 ・規則動詞→語尾に -(e)d をつける ①ふつう→〈原形+ed〉 ②語尾が e →〈原形+d〉 ③語尾が〈子音字+y〉→ y を i にして ed をつける。 ④語尾が〈短母音+子音字〉→子音字を重ねて ed をつける。 ・不規則動詞→不規則に変化。</p> <p>(5) 一般動詞の過去の否定文 〈主語+did not[didn't]+動詞の原形 ~.〉</p> <p>(6) 一般動詞の過去の疑問文 〈Did+主語+動詞の原形 ~?〉 答え方は, Yes, ~ did. / No, ~ didn't.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 一般動詞の否定文・疑問文 主語が 3 人称単数のとき, do が does に変化する。 • 疑問詞や or のない疑問文の場合は, 答えは Yes / No で答える。 • 疑問詞が主語の文 Who cleaned the room? (だれが部屋をそうじしたのですか。) — Taro did. (太郎です。) • 進行形の文 「～している[していた]」と動作が進行中であることを表す。 〈be 動詞+~ing〉で表す。 [現在進行形] He <u>is</u> playing soccer. [過去進行形] He <u>was</u> playing soccer. 															

【主な学習内容】

- ◎未来を表す助動詞 will と be going to ～の文
- ◎助動詞 can・may・must などの用法(基本文・疑問文・否定文)と表現

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 未来の文</p> <p>☆「～するつもりだ」「～だろう」と未来を表す文は、〈will+動詞の原形〉か〈be going to+動詞の原形〉を用いる。</p> <p>(1) 〈will + 動詞の原形〉 Ken will go to America next year. (健は来年アメリカに行くでしょう。) 否定文→〈will not[won't]+動詞の原形～〉 疑問文→〈Will+主語+動詞の原形～?〉 答え方: Yes, ～ will. / No, ～ will not[won't]. 💡短縮形 will not = won't</p> <p>(2) 〈be going to+動詞の原形〉 I am going to study math this evening. (私は今晚数学を勉強するつもりです。) 否定文→〈be 動詞+not going to+動詞の原形～〉 疑問文→〈be 動詞+主語+going to+動詞の原形～?〉 💡疑問詞がある場合は、〈疑問詞+be 動詞+主語+going to+動詞の原形～?〉</p> <p>(3) Will you ～? 「～していただけますか」(依頼), 「～しませんか」(勧誘)の意味もある。</p> <p>② 助動詞の用法</p> <p>☆助動詞は主語によって形はかわらない。あとには動詞の原形がくる。</p> <p>(1) can 「～できる」 may 「～してもよい」「～かもしれない」 must 「～しなければならない」「～にちがいない」 should 「～するべきである」(💡 must より意味が弱い)</p> <p>(2) 助動詞の否定文 助動詞のあとに not をおく。〈助動詞+not+動詞の原形〉 can't, cannot 「～できない」 must not[mustn't] 「～してはいけない」 should not[shouldn't] 「～すべきではない」</p> <p>(3) 助動詞の疑問文 〈助動詞+主語+動詞の原形～?〉 May[Can] I ～? 「(私が)～してもいいですか」(許可を請う) Shall I ～? 「(私が)～しましょうか」(申し出) Shall we ～? 「(いっしょに)～しませんか」(勧誘)</p> <p>(4) be able to ～ 「～できる」= can was[were] able to ～ 「～できた」= could have[has] to ～ 「～しなければならない」= must had to ～ 「～しなければならないかった」 don't[doesn't] have to ～ 「～しなくてもよい」= need not ～ would like to ～ 「～したい(ものだ)」(want よりていねいな言い方) had better ～ 「～したほうがよい」(やや命令的)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 1つの助動詞でも意味が複数あるため文脈をよく読み取ること。 • Will you ～? は会話でよく用いられる。(Shall I ～? や Shall we ～? も同様) • 疑問文への答え方の例 Will you ～? (依頼) — Sure. / All right. — I'm sorry I can't. Will you ～? (勧誘) — Yes, I will. / Sure. — No, thank you. May[Can] I ～? — Sure. / Certainly. — No, you may not. Must ～? — Yes, ～ must. — No, ～ don't[doesn't] have to. Shall I ～? — Yes, please. / Yes, thank you. — No, thank you. Shall we ～? — Yes, let's. / All right. — No, let's not. • must と have to 肯定文では両方とも「～しなければならない」である。否定文では must not ～ 「～してはいけない」 don't have to ～ 「しなくてもよい」となり、意味が異なることに注意する。 • can, must の未来 助動詞を2つ並べて使うことはできないので、未来を表す文にするには can → will be able to ～ must → will have to ～ の形にする。

3

命令文・疑問詞を使った文

◆指導ページ P.8～9◆

【主な学習内容】

- ◎命令文の作り方と言いかえ
- ◎疑問詞で始まる疑問文とその答え方

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 命令文</p> <p>☆命令文「～しなさい」は、動詞の原形で始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Please がつくるとていねいな命令文になる。 Please open the door. = Open the door, please. (ドアを開けてください。) コンマを入れる ・ be 動詞の命令文は、Be ～. の形。 Be quiet. (静かにしなさい。) <p>(1) 否定の命令文「～してはいけない」は、〈Don't + 動詞の原形 ～〉 Don't be noisy. (騒いではいけません。) ⚡ be 動詞でも Don't から始める。</p> <p>(2) 「～しましょう」は、〈Let's + 動詞の原形 ～〉 答え方は、Yes, let's. / No, let's not. など。</p> <p>② 疑問詞で始まる疑問文</p> <p>(1) 疑問代名詞(主語・補語・目的語) what 「何」, who 「だれ」, which 「どれ」, whose 「だれのもの」 Whose is this? (これはだれのものですか。) — It's Tom's. (トムのものです。)</p> <p>(2) 疑問副詞 when 「いつ」, where 「どこで」, why 「なぜ」, how 「どのようにして」 Why were you absent? (なぜあなたは欠席したのですか。) — Because I was sick. (病気だったからです。)</p> <p>(3) 疑問形容詞 〈what + 名詞〉「何の～」, 〈which + 名詞〉「どの～」, 〈whose + 名詞〉「だれの～」 Whose book is this? (これはだれの本ですか。) — It's mine. (私のものです。)</p> <p>(4) 主語になる疑問詞の文は、〈疑問詞 + 動詞 ～?〉 Who used my bike? (だれが私の自転車を使ったのですか。) — Tom did. (トムです。)</p> <p>(5) 「どれくらい～」とたずねる疑問文は、〈How + 形容詞[副詞] ～?〉 How old ～? (年齢・古さ) How many ～? (個数) How tall ～? (身長・ものの高さ) How much ～? (値段や量・程度) How long ～? (時間やものの長さ) How often ～? (回数) How far ～? (距離) How high ～? (高さ)</p> <p>例 How old are you? (あなたは何歳ですか。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 命令文の言いかえ <ul style="list-style-type: none"> ・ 命令文 = You must ～. ・ Don't ～. = You must not ～. ・ Please ～. = Will you ～? ・ Let's ～. = Shall we ～? • 命令文, and ～ 「…しなさい, そうすれば～」 • 命令文, or ～ 「…しなさい, さもないと」 • 疑問詞を用いる疑問文 <ul style="list-style-type: none"> → 文末は下げ調子で読む。 → Yes / No で答えることはできない。 • 疑問詞は3人称単数扱い。 疑問詞が主語のときは、3人称単数として扱う。語順は平叙文と同じ。 Who <u>is</u> in the room? — Tom and Jim are. ⚡ 答えが複数であっても、is を用いてたずねる。 • 日付・曜日・時刻のたずね方 What's the date today? = What day of the month is it today? (きょうは何日ですか。) What day is it today? (きょうは何曜日ですか。) What time is it now? (今、何時ですか。) ⚡ 時間を表す文にはよく it が用いられるが、これは日本語に直訳することはない。

4

名詞・冠詞・代名詞

◆指導ページ P.10～11◆

【主な学習内容】

- ◎名詞の分類, 冠詞 a, the の用法
- ◎代名詞の分類・用法

学習内容	補足・留意事項など															
<p>1 名詞の用法</p> <p>(1) 数えられる名詞と数えられない名詞がある。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">数えられる名詞 a[an]がつき, 複数形がある</td> <td style="text-align: center;">普通名詞</td> <td>boy 「少年」, book 「本」</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">集合名詞</td> <td>family 「家族」, class 「組」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">数えられない名詞 a[an]がつかず, 常に単数扱い</td> <td style="text-align: center;">物質名詞</td> <td>water 「水」, tea 「紅茶」</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">固有名詞</td> <td>Ken 「健」, Tokyo 「東京」</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">抽象名詞</td> <td>music 「音楽」, love 「愛」</td> </tr> </table> <p>(2) 名詞の複数形は -(e)s をつける規則変化と不規則変化がある。</p> <p>2 冠詞の用法</p> <p>(1) a 数えられる名詞につく。発音が母音で始まる語の前では an になる。</p> <p>(2) the 名詞の単複両方につく。前に1度出た名詞を指すとき, 何を指すかわかる名詞や, 天体, 方位, 序数, 最上級などにつく。</p> <p>3 代名詞の用法</p> <p>(1) 人称代名詞 人称・数・性・格(主格・所有格・目的格)により変化。</p> <p>(2) 所有代名詞「～のもの」 mine, his 以外は所有格に s がついた形で表す。所有代名詞のあとには名詞がこない。 ⚡ 固有名詞の場合は, ' (アポストロフィー) を s につける。 Mary's 「メアリーのもの」</p> <p>(3) 再帰代名詞「自分で」, 「自分自身を」 1人称と2人称→所有格+self(複数の場合は selves) で表す。 3人称 → 目的格+self(複数の場合は selves) で表す。</p> <p>(4) 指示代名詞 this 「これ」, these 「これら」, that 「あれ」, those 「あれら」</p> <p>(5) 不定代名詞 one…前に出てきた名詞をくり返すかわりに使う。 My bag is small. I want a big one. (私のかばんは小さいです。大きいのがほしいです。) some はふつう肯定文, any は疑問文・否定文に用いる。 ⚡ 主な不定代名詞 単数扱い: one, another, other, each, ~thing, ~body 複数扱い: others, both 単複両方: all, some, any</p> <p>(6) it の特別用法 天候・寒暖・明暗・時刻・日付・曜日などを表す文では it を主語にし, 「それは」と訳さない。</p>	数えられる名詞 a[an]がつき, 複数形がある	普通名詞	boy 「少年」, book 「本」		集合名詞	family 「家族」, class 「組」	数えられない名詞 a[an]がつかず, 常に単数扱い	物質名詞	water 「水」, tea 「紅茶」		固有名詞	Ken 「健」, Tokyo 「東京」		抽象名詞	music 「音楽」, love 「愛」	<ul style="list-style-type: none"> 不規則変化の複数形 man 「男性」 → men woman 「女性」 → women[wimɪn] ⚡発音に注意 child 「子ども」 → children foot 「足」 → feet 単複同形の名詞 fish 「魚」, deer 「シカ」 数えられない名詞の量の表し方 ・ a cup of ～ 「カップ1杯の～」 tea, coffee など ・ a glass of ～ 「コップ1杯の～」 water, milk など ・ a piece of ～ 「1枚(1きれ)の～」 paper, bread など ・ a sheet of ～ 「1枚の～」 paper など。 ⚡量が多い場合は, 容器や単位を表す語を複数形にする。 two <u>pieces</u> of bread 「食パン2枚」 不定冠詞 a[an] 「ある～」 「1つの～」 「～というもの」, 「～につき」の意味をもつ。 定冠詞 the あとに続く語の始まりが子音か母音によって発音が変わる。 (子音の前:[ðə], 母音の前:[ði]) 冠詞が省略される表現 go to school 「学校へ行く」 go to bed 「寝る」 play tennis 「テニスをする」 by bus 「バスで」 at home 「家で」 再帰代名詞を用いた表現 say to ~self 「心で思う」 by ~self 「1人で」 enjoy ~self 「楽しむ」
数えられる名詞 a[an]がつき, 複数形がある	普通名詞	boy 「少年」, book 「本」														
	集合名詞	family 「家族」, class 「組」														
数えられない名詞 a[an]がつかず, 常に単数扱い	物質名詞	water 「水」, tea 「紅茶」														
	固有名詞	Ken 「健」, Tokyo 「東京」														
	抽象名詞	music 「音楽」, love 「愛」														

【主な学習内容】

- ◎as ~ as ... の文の用法
- ◎比較級, 最上級を用いた文の用法

学習内容	補足・留意事項など
<p>① as ~ as ... の文</p> <p>☆「…と同じくらい～」→〈as+原級(形容詞・副詞)+as ...〉 Ken is as tall as Jiro. (健は次郎と同じくらいの背たけです。)</p> <p>💡否定文の〈not as+原級(形容詞・副詞)+as ...〉は、「…ほど～ではない」の意味。 I can't run as fast as Mike. (私はマイクほど速く走れません。)</p> <p>💡〈一 times as+原級+as ...〉は、「…の一倍～」の意味。 Your room is three times as large as mine. (あなたの部屋は私の部屋の3倍の大きさです。)</p> <p>💡2倍のときは、〈twice as+原級+as ...〉で表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • as ~ as を用いた慣用表現 as ~ as one can = as ~ as possible 「できるだけ～」 He ran as fast as he could. (彼はできるだけ早く走った。)
<p>② 比較級の文</p> <p>☆2つのものを比べて、「…より～」→〈比較級(-er)+than ...〉 Tom can run faster than Roy. (トムはロイより速く走れます。)</p> <p>(1) つづりの長い語(例 beautiful, popular)は more をつけて比較級にする。 This is more beautiful than that. (これはあれよりも美しい。)</p> <p>(2) 〈like ~ better than ...〉で、「…より～のほうが好きだ」の意味。</p> <p>(3) 「AとBではどちらのほうが～か」とたずねるときは、〈Which[Who]+動詞+比較級, A or B?〉で表す。答え方ときは、〈A[B] is.〉のように表す。 Who is taller, Ken or Jiro? (健と次郎ではどちらのほうが背が高いですか。) — Ken is. (健です。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「ずっと～」の言い方 much は比較級を強める。 He is much taller than Tom. (彼はトムよりずっと背が高い。) • 〈比較級+than any other+名詞の単数形〉 最上級の内容を表す。 He is taller than any other boy in the class. (彼はクラスの中でほかのどの少年よりも背が高い。)
<p>③ 最上級の文</p> <p>☆3つ以上のものを比べて「…のうちでいちばん～」→〈the+最上級(-est)+in[of] ...〉 Makoto is the tallest in his class. (誠はクラスでいちばん背が高い。)</p> <p>(1) つづりの長い語は most をつけて最上級にする。 most difficult 「最も難しい」, most beautiful 「最も美しい」</p> <p>(2) 〈like ~ the best〉で、「～がいちばん好きだ」 I like soccer the best of all sports. (私はすべてのスポーツの中でサッカーがいちばん好きです。)</p> <p>(3) 「どれ[だれ]がいちばん～か」とたずねるときは、〈Which[Who]+動詞+最上級～?〉 Which[who]は3人称単数扱い。 Which is the biggest of the three? (3つの中でどれがいちばん大きいですか。) Who gets up (the) earliest in your family? (あなたの家族でだれがいちばん早く起きますか。) — I do. (私です。)</p> <p>💡副詞には the をつけないこともある。</p> <p>(4) 〈one of the+最上級+名詞の複数形〉で、「最も～な…の1つ」の意味。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 不規則な変化をする形容詞・副詞 原級 比較級 最上級 good — better — best well — better — best bad — worse — worst little — less — least many — more — most much — more — most • of, in の使い方 〈in+範囲・場所〉 in the class 「クラスで」 in this town 「この町で」 in Japan 「日本で」 in the world 「世界で」 〈of+複数〉 of us all 「私たちみんなの中で」 of the three 「3つ[3人]の中で」

6

不定詞・動名詞・分詞

◆指導ページ P.16～21◆

【主な学習内容】

- ◎不定詞の名詞的・副詞的・形容詞的用法と重要表現
- ◎動名詞、分詞の用法

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 不定詞</p> <p>☆不定詞：〈to+動詞の原形〉で表す。名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法がある。</p> <p>(1) 名詞的用法：「～すること」の意味で、動詞の目的語、文の主語・補語になる。 My brother likes <u>to swim</u>. (私の兄は泳ぐことが好きです。) 目的語</p> <p>(2) 副詞的用法：「～するために」(目的)を表す用法, 「～して」(感情の原因)を表す用法など。 Everyone was glad <u>to hear</u> the news. (だれもがそのニュースを聞いて喜びました。) 感情の原因</p> <p>(3) 形容詞的用法：「～するための, ～すべき」の意味で、名詞や something などの代名詞を後ろから修飾する。 Does she have anything <u>to drink</u>? (彼女は何か飲むものを持っていますか。) ⚡代名詞に形容詞がつくときは、〈something など+形容詞+to+動詞の原形〉 something cold <u>to drink</u> (何か冷たい飲みもの)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 副詞的用法の目的を表す場合の to は in order to と書きかえることもできる。 不定詞が表す主語の部分が長い場合には、〈It is ... (for —) to ~.〉の形で表す場合が多い。 It is fun for me to learn a foreign language. (私にとって外国語を学ぶことは楽しい。)
<p>② 不定詞の重要表現</p> <p>(1) 〈It is ... (for —) to ~.〉 = 「(— が[—にとって])～することは…だ」 〈It is ... of — to ~.〉 = 「～するとは、— は…だ」 ⚡「…」は人の性質などを表す形容詞。</p> <p>(2) 〈ask[tell]+目的語+to ~〉 = 「…に～するように頼む[言う]」 〈want[would like]+目的語+to ~〉 = 「…に～してほしい」</p> <p>(3) 〈疑問詞+to ~〉：名詞の働きをし、動詞の目的語になる。 ⚡ how to ~「～のしかた」、when to ~「いつ～すべきか」、what to ~「何を～すべきか」など。</p> <p>(4) 〈too ... (for —) to ~〉 = 「…すぎて(—には)～できない」, 「(—が)～するには…すぎる」</p> <p>(5) 〈... enough (for —) to ~〉 = 「(—が)～できるほど十分に…だ」, 「十分に…なので(—は)～できる」</p>	<p>(2) 〈動詞+目的語+to ~〉 expect, wish, believe, think, teach, allow など</p> <ul style="list-style-type: none"> 不定詞と動名詞(目的語にどちらをとるか) 動名詞の文を不定詞の文に書きかえることは可能だが、動詞によって一方しか使えないものや意味がかわるものがあるので注意する。
<p>③ 動名詞</p> <p>☆〈動詞の原形+ing〉の形で、「～すること」の意味。 動詞・前置詞の目的語、文の主語・補語になる。 ⚡動詞によって動名詞・不定詞のどちらを目的語にとるかが決まる。 ・ enjoy[finish / stop]+動名詞 ・ want[hope / decide]+不定詞 ・ remember ~ing(～したのを覚えている) / remember to ~ (忘れずに～する)</p> <p>⚡動名詞を含む重要表現 look forward to ~ing 「～するのを楽しみにする」 cannot help ~ing 「～せずにはいられない」 feel like ~ing 「～したい気がする」 be used to ~ing 「～するのに慣れている」</p>	<ul style="list-style-type: none"> stop ~ing 「～するのをやめる」 stop to ~ 「～するために立ち止まる」 forget ~ing 「～したのを忘れる」 (~ing は過去の出来事) forget to ~ 「～するのを忘れる」 (to~は未来のこと、これからすること)
<p>④ 名詞を修飾する分詞</p> <p>☆現在分詞・過去分詞には、名詞を修飾する用法がある。</p> <p>(1) 〈名詞+現在分詞+語句〉 〈現在分詞+語句〉が名詞を修飾し、「～している(…)」の意味を表す。 I know <u>the girl cooking</u> in the kitchen. (私は台所で料理をしている女の子を知っています。) 女の子 ↑ 台所で料理をしている</p> <p>(2) 〈名詞+過去分詞+語句〉 〈過去分詞+語句〉が名詞を修飾し、「～された(…)」の意味を表す。 He bought <u>a watch made</u> in Switzerland. (彼はスイス製の腕時計を買いました。) 腕時計 ↑ スイスで作られた</p> <p>⚡現在分詞・過去分詞が他の語句を伴わない場合は、〈現在分詞[過去分詞]+名詞〉の語順。 a swimming pool 「水泳用のプール」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現在分詞の形 動詞に ing をつけた形で進行形に用いられる。 過去分詞の形 ed をつける規則変化のものや不規則変化をするものなどがあるため、それぞれで覚えておくこと。

【主な学習内容】

- ◎接続詞(等位接続詞と従属接続詞)を用いた文の用法
- ◎接続詞の働きをする連語と接続詞 that の用法

学習内容	補足・留意事項など
<p>1 等位接続詞</p> <p>☆語と語, 句と句, 節と節を対等の関係で結びつける。</p> <p>Jack and I went to the library. (ジャックと私は図書館に行きました。)</p> <p>～と… ←語と語を対等に結ぶ働き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・so ... : 「それで…」 「だから…」 の意味を表し, so のあとには結果を述べる節が続く。 ・for ... : 「というのは…だから」 の意味を表し, 直前に述べたことについてあとから理由・根拠を加える。 <p>You may be sick, for you look pale. (あなたは病気かもしれない, というのは顔色がよくないから。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●等位接続詞 語と語, 句と句, 文と文を対等に結ぶ接続詞。and, or, but など。 ●従属接続詞 2つの文を主と従の関係で結ぶ。when, if, though など。 ●節 〈主語+動詞～〉の形で文の一部になっているもの。
<p>2 注意すべき用法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈命令文, and ～〉 = 「…しなさい, そうすれば～」 ・〈命令文, or ～〉 = 「…しなさい, さもないと～」 <p>💡 次の語は本来は副詞であるが, 接続詞としての働きもする then 「それから」, also 「そのうえ」, besides 「そのうえ」, however 「しかしながら」, (and) yet 「それでも」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・命令文, and[or] ～の書きかえ 命令文, and ～ = If you ..., you will ～. 命令文, or ～ = If you don't ..., you will ～.
<p>3 連語の等位接続詞</p> <p>(1) 〈both A and B〉 = 「A も B も両方とも」</p> <p>(2) 〈not only A but (also) B〉 = 「A だけでなく B も」 💡 = B as well as A 〈not A but B〉 = 「A ではなく B」</p> <p>(3) 〈either A or B〉 = 「A か B のどちらか」 (主語になるとき動詞は B に合わせる) 〈neither A nor B〉 = 「A も B も～ない」 (主語になるとき動詞は B に合わせる)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連語の等位接続詞 必ず動詞と動詞, 名詞と名詞のように同じ品詞のものが組み合わせる。 ・従属接続詞 when ～ 「～のとき」 until ～ 「～まで」 if ～ 「もし～ならば」 unless ～ 「もし～でないならば」 though ～, although ～ 「～だけれども」 because ～, as ～ 「～だから」
<p>4 従属接続詞</p> <p>☆節と節を主と従の関係で結びつける。</p> <p>💡 時や条件を表す副詞節の中では, 未来のことも現在形で表す。 時 → when, until など。 条件 → if, unless 譲歩 → though, although 理由 → because, as など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・so ... that — can't = too ... to ～ I'm so busy that I can't go there. = I'm too busy to go there. (私はあまりにも忙しくてそこへ行くことができません。)
<p>5 連語の従属接続詞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈as soon as+主語+動詞 ～〉 = 「～するとすぐに」 ・〈so ... that+主語+動詞 ～〉 = 「とても…なので～」 💡 so のあとは形容詞(副詞)。 ・〈such ... that+主語+動詞 ～〉 = 「とても…なので～」 💡 such のあとは〈(a[an]+)形容詞+名詞〉。 ・〈so that+主語+can[may / will] ～〉 = 「～するために」 	<ul style="list-style-type: none"> ・that をとる動詞 think that ～ 「～と思う」 believe that ～ 「～を信じる」 say that ～ 「～と言う」 know that ～ 「～ということを知っている」 hope that ～ 「～と願う」
<p>6 接続詞 that</p> <p>☆〈that+主語+動詞 ～〉で「～ということ」を表す。 💡 that は省略できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈be glad that ～〉 = 「～をうれしく思う」 ・〈be sure that ～〉 = 「きっと～だと思う」 ・〈be sorry that ～〉 = 「～を気の毒[残念]に思う」 ・〈be afraid that ～〉 = 「～ではないかと心配する」 	<ul style="list-style-type: none"> ・that を用いる構文 the fact is that ～ 「実は～」 it seems that ～ 「～のように思える」

【主な学習内容】

- ◎各文型の構造
- ◎他の文型との構造の違い

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 〈S+V〉</p> <p>(1) 修飾語句の種類 形容詞(句)→名詞を修飾, 副詞(句)→動詞・形容詞・他の副詞を修飾。 💡 S+V の文は, 修飾語句がつくことが多い。</p> <p>(2) 〈There is[are]+主語 ~.〉も S+V 💡 この場合の be 動詞は「~がある[いる]」の意味。 There <u>are</u> <u>three boys</u> in the classroom. (教室には3人の男の子がいます。) V S</p>	<ul style="list-style-type: none"> • S = 主語, V = 動詞, C = 補語, O = 目的語
<p>② 〈S+V+C〉</p> <p>☆主語と補語とは S=C の関係。 My parents <u>look</u> <u>very happy</u>. (私の両親はとても幸せそうに見えます。) S V C</p> <p>(1) 補語: 動詞の意味を補い, 主語を説明する。 (2) S+V+C を作る動詞 be 動詞, look, become, get (~になる), turn (~になる), feel (~に感じる), keep (~のまま), sound (~に聞こえる), taste (~な味がする) など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●補語 主語について説明する語のことで, 主格補語という。主格補語には名詞または形容詞のみになる。 • look の区別 look at ~ 「~を見る」 look + 形容詞 「~に見える」 look like + 名詞 「~のようだ」
<p>③ 〈S+V+O〉</p> <p>I <u>finished</u> <u>my homework</u> before dinner. (私は夕食前に宿題を終えました。) S V O</p>	<ul style="list-style-type: none"> • S+V+C の文型: S=C の関係 S+V+O の文型: S≠O の関係
<p>④ 〈S+V+O+O〉</p> <p>I <u>showed</u> <u>him</u> <u>my favorite pictures</u>. (私はお気に入りの写真を彼に見せました。) S V O O</p> <p>(1) 目的語が2つある。 「(主語)は~(人)に…(もの)を一する」の意味を表す。 (2) 間接目的語と直接目的語 間接目的語, 直接目的語の順に並べる。 (3) SVOO と SVO 直接目的語が先にくると, 〈S+V+O(もの)+to[for]+人〉の形になる。 ・ to を使う動詞: give, send, lend, show, teach, tell など。 ・ for を使う動詞: buy, make, get, find など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●目的語 名詞・代名詞とそれに相当する語句(不定詞・動名詞など)で, 「~を」「~に」にあたり, 動詞の動作の対象となる語句。 • 間接目的語 「~(人)に」の意味を表す語 • 直接目的語 「…(もの)を」の意味を表す語
<p>⑤ 〈S+V+O+C(名詞)〉</p> <p>We <u>call</u> <u>the boy</u> <u>Jim</u>. (私たちはその男の子をジムと呼びます。) S V O C(名詞)</p> <p>(1) 目的格補語: 目的語を説明する語。O=C の関係が成り立つ。 (2) SVOC の受動態 We call him Bob. → He <u>is called</u> <u>Bob</u>. 💡 補語は〈be+過去分詞〉の直後。 S V C</p>	<ul style="list-style-type: none"> • call+O+C 「O を C と呼ぶ」 • name+O+C 「O を C と名づける」
<p>⑥ 〈S+V+O+C(形容詞)〉</p> <p>I <u>found</u> <u>the book</u> <u>interesting</u>. (私はその本がおもしろいことがわかりました。) S V O C(形容詞)</p> <ul style="list-style-type: none"> • make+O+C 「O を C (の状態)にする」 • find+O+C 「O が C だとわかる」 • keep+O+C 「O を C に保つ」 • leave+O+C 「O を C のままにしておく」 • think+O+C 「O は C だと考える」 • believe+O+C 「O は C だと信じる」 	<ul style="list-style-type: none"> • make が作る文構造 ① SVO の文 He made a box. (彼は箱を作った。) ② SVOO の文 He made her a box. (彼は彼女に箱を作った。) ③ SVOC の文 He made her a teacher. (彼は彼女を先生にした。)

【主な学習内容】

- ◎受動態の基本文型, by 以外の前置詞を用いる受動態, 疑問詞で始まる受動態の疑問文
- ◎SVOO および SVOC の受動態や助動詞を含む受動態, Who ~? の受動態

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 受動態の文</p> <p>☆「～される, ～されている」→〈be 動詞+過去分詞〉</p> <p>(1) 行為者を示すときは〈by+行為者〉で表す。 The door was opened by Jack. (そのドアはジャックによって開けられました。)</p> <p>(2) 受動態の否定文→〈主語+be 動詞+not+過去分詞 ~〉</p> <p>(3) 受動態の疑問文→〈be 動詞+主語+過去分詞 ~?〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 能動態…動作を行う人[もの]を主語とする形。 • 受動態…動作を受ける人[もの]を主語にする形。 • 行為者がはっきりしない場合や一般の人の場合は省略する。
<p>② by 以外の前置詞を用いる受動態</p> <p>過去分詞が形容詞化していて、「～される」と受け身的に訳さないものも多い。</p> <p>be known to ~ 「～に知られている」 be covered with ~ 「～でおおわれている」 be surprised at ~ 「～に驚く」 be filled with ~ 「～で満ちている」 be crowded with ~ 「～で混んでいる」 be satisfied with ~ 「～に満足する」 be made of+材料 / be made from+原料 / be made into+製品</p>	<ul style="list-style-type: none"> • by ~が省略されている受動態を能動態に書きかえるときは, they, we, you, peopleなどを主語に補う。
<p>③ 疑問詞で始まる受動態の疑問文</p> <p>疑問詞が主語の場合: 〈疑問詞+be 動詞+過去分詞~?〉 What was written on the blackboard? (黒板には何が書かれていましたか。)</p> <p>疑問詞が主語でない場合: 〈疑問詞+be 動詞+主語+過去分詞~?〉 When was the picture taken? (その写真はいつ撮られましたか。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 過去の受動態の文 〈was[were]+過去分詞〉
<p>④ 〈S+V+O+O〉, 〈S+V+O+C〉の受動態</p> <p>☆ SVOO の文→目的語(人)・目的語(もの)をそれぞれ主語にして2通りの受動態ができる。 SVOC の文→目的語を主語にした受動態ができる。</p> <p>(1) S+V+O+O の受動態 ふつう, それぞれの目的語を主語とした2通りの受動態ができる。 He gave <u>me</u> many books. (彼は私にたくさんの本をくれました。) <u>Many books</u> were given (to) <u>me</u> by him. (たくさん本が彼によって私に与えられました。) <u>I</u> was given many books by him. (私は彼にたくさん本をもらいました。)</p> <p>(2) S+V+O+C の受動態 目的語を主語にし, 補語は過去分詞のあとにおく。補語は主語にできない。 We named that dog Pochi. (私たちはあのイヌをポチと名づけました。) <u>That dog</u> was named Pochi by us. (あのイヌは私たちによってポチと名づけられました。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • SVOC の文の補語 この文で補語となるものは, 名詞・代名詞・形容詞であるが, これらを主語にして受動態を作ることはできない。
<p>⑤ 助動詞を含む文の受動態</p> <p>〈主語+助動詞+be+過去分詞(+by ...) ~〉 ⚡ be 動詞は常に原形の be。 The moon can be seen at night. (月は夜に見えます。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 助動詞を含む文の受動態の否定文 〈助動詞+not+be+過去分詞〉
<p>⑥ 句動詞の受動態</p> <p>句動詞を切り離さない。 speak to ~ → be spoken to (by ...) / laugh at ~ → be laughed at (by ...)</p>	
<p>⑦ Who ~? の受動態</p> <p>「だれによって～されるか」という受動態の疑問文は, By whom 「だれによって」を文頭におく表し方と, by を文末に残して Who ~ by? とする表し方がある。 Who was this picture taken by? (この写真はだれによって撮られましたか。) = By whom was this picture taken?</p>	

【主な学習内容】

- ◎現在完了形の基本文型の学習
- ◎継続・経験・完了・結果を表す現在完了

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 継続</p> <p>☆「(ずっと)~である」(過去から現在までの状態・動作の継続)</p> <p>(1) 「継続」に用いられる副詞句：期間を表す副詞句を伴うことが多い。 〈for + 期間〉を表す語句, 〈since + 過去の起点〉を表す語句 He has lived in this town <u>for several years</u>. (彼は数年間この町に住んでいます。) 期間を表す副詞</p> <p>(2) ①否定文：have, has のあとに not をおく。〈have [has] not + 過去分詞〉 I haven't seen him since last week. (私は先週から彼に会っていません。) ②疑問文：have, has を主語の前に出す。〈have [has] + 主語 + 過去分詞 ~?〉 答え方→ Yes, 主語 + have [has]. / No, 主語 + have [has] not. Has she been sick for a week? (彼女は1週間ずっと病気ですか。) — Yes, she has. / No, she hasn't. (はい, そうです。/ いいえ, ちがいます。)</p> <p>(3) 期間をたずねる疑問文 〈How long have [has] + 主語 + 過去分詞 ~?〉「どのくらいの間ずっと~ですか」</p> <p>② 経験</p> <p>☆「(今までに)~したことがある」(現在までの経験)</p> <p>(1) 「経験」に用いられる副詞(句)：頻度を表す副詞(句)を伴うことが多い。 before(以前に), once(1度), twice(2度), ~ times(~回), never(1度も~ない), ever([疑問文で]今までに) Bob has visited London <u>twice</u>. (ボブはロンドンを2度訪れたことがあります。)</p> <p>(2) 回数をたずねる疑問文 〈How many times [How often] have [has] + 主語 + 過去分詞 ~?〉</p> <p>(3) have [has] been to ~ 「~へ行ったことがある」(☞ gone を使わず been を使う)</p> <p>③ 完了</p> <p>☆「(ちょうど)~したところだ」「(すでに)~し終わった」(動作の完了)</p> <p>(1) 「完了」に用いられる副詞 just(ちょうど), already(すでに), yet([否定文で]まだ, [疑問文で]もう) Tom has just finished his homework. (トムはちょうど宿題を終えたところです。)</p> <p>(2) 否定文→〈主語 + have [has] not + 過去分詞 ~ yet.〉 She hasn't written her report yet. (彼女はまだレポートを書いていません。)</p> <p>(3) 疑問文→〈Have [Has] + 主語 + 過去分詞 ~ yet?〉 Has he finished his homework yet? (彼はもう宿題を終えましたか。)</p> <p>④ 結果</p> <p>☆「~してしまった(その結果, 今は…だ)」(動作が完了し, その結果が現在も残っている)</p> <p>I have lost my watch. → I lost my watch. + I don't have my watch now. ・過去との対比 He went out. (「出かけた」→過去の事実のみで, 現在のことにはふれていない) He has gone out. (「出かけてしまった」→現在はここにはいない)</p> <p>・現在完了とともに用いない語句 ①過去の特定の時を表す語(句)→ yesterday, last week, in 2010 など。 ② just now(たった今) ③疑問詞の when[what time]</p>	<p>●現在完了形</p> <p>〈have [has] + 過去分詞〉の形で、過去に起きたことや過去の状態が現在に関係していることを表す。 [現在完了形の用法] ①継続 ②経験 ③完了 ④結果</p> <p>●have, has の短縮形 I have = I've You have = You've They have = They've We have = We've He has = He's She has = She's have not = haven't has not = hasn't ☞ He's = He is, She's = She is の場合もあるので注意。</p> <p>●経験を表す現在完了の副詞 often, never, ever →過去分詞の前におく。 once など頻度を表す副詞, before, yet →文末におく。</p> <p>●完了を表す現在完了の副詞 yet →文末におく。 already, just →過去分詞の前におく。</p> <p>●have been to ~ 「~に行ったことがある」(経験) 「~に行ってきたところだ」(完了)</p> <p>●have been in ~ 「~に行ったことがある」(経験) 「~にずっといる」(継続)</p> <p>●have gone to ~ 「~へ行ってしまった(今ここにはいない)」(結果)</p>

【主な学習内容】

- ◎関係代名詞の働き
- ◎主格の関係代名詞と目的格の関係代名詞の用法

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 関係代名詞</p> <p>☆関係代名詞は接続詞の働きと代名詞の働きを兼ねる。 形容詞節を導き、すぐ前にある名詞(先行詞)を修飾する。 関係代名詞は、導く節の中で、主語や目的語の働きをする。</p> <p>② 主格の関係代名詞</p> <p>(1) who 先行詞が「人」である場合に用いる。 <u>the man</u> + He is running in the park. → the man who is running in the park (公園で走っている男の人)</p> <p>(2) which 先行詞が「もの・動物」である場合に用いる。 <u>books</u> + They are written in English. → books which are written in English (英語で書かれている本)</p> <p>(3) that 先行詞が「人・もの・動物」である場合に用いる。 <u>the girl</u> + She sits by the window. → the girl that sits by the window (窓のそばに座っている少女)</p> <p>③ 目的格の関係代名詞</p> <p>(1) whom 先行詞が「人」のときに使う。ただし、会話ではほとんど使われない。 <u>the man</u> + I met <u>him</u> at the station. → the man whom I met at the station (私が駅で会った男の人)</p> <p>(2) which 先行詞が「もの・動物」である場合に用いる。 <u>the dictionary</u> + My aunt gave me <u>the dictionary</u>. → the dictionary which my aunt gave me (おばが私にくれた辞書)</p> <p>(3) that 先行詞が何であっても使える。 先行詞が「人+動物」のときは、「人」と「動物」のどちらにも使える that を使う。 <u>the bag</u> + You bought <u>it</u> in Italy. → the bag that you bought in Italy (あなたがイタリアで買ったバッグ)</p> <p>(4) 主格と目的格の見分け方 主格 : 〈先行詞 + who / which / that + 動詞～〉 This is the bus which goes to the airport. (これは空港に行くバスです。) → This is <u>the bus</u>. + <u>It</u> goes to the airport. (これはバスです。)+(それは空港へ行きます。)</p> <p>目的格 : 〈先行詞 + whom / which / that + 主語 + 動詞～〉 This is a picture which my uncle took. (これは私のおじが撮った写真です。) → This is <u>a picture</u>. + My uncle took <u>it</u>. (これは写真です。)+(私のおじがそれを撮りました。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 主格の関係代名詞 導く節の中で、主語の働きをする。 • 主格の関係代名詞節の動詞 先行詞に時制・人称をあわせる。 • 目的格の関係代名詞 導く節の中で、動詞の目的語の働きをする。 • 目的格の関係代名詞は省略されることが多い。特に口語では省略するのがふつうである。語順は関係代名詞がぬけるだけで変わらない。

【主な学習内容】

- ◎前置詞の目的語になる関係代名詞, 所有格の関係代名詞 whose の用法
- ◎関係代名詞 that の特別用法, 関係代名詞 what の用法

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 前置詞の目的語になる関係代名詞</p> <p>☆〈前置詞+関係代名詞〉の形で表す。 This is <u>the house</u>. They live in <u>here</u>. → This is the house in which they live. (これは彼らが住んでいる家です。) = This is the house which they live in. ⚡ that を使った場合は, 前置詞を前におくことはできない。 ○ This is the hotel <u>that</u> we stayed <u>at</u>. × This is the hotel <u>at that</u> we stayed. ← at that とはしない。</p> <p>② 関係代名詞の省略</p> <p>☆目的格の関係代名詞は省略可能。 〈省略の見分け方〉 〈名詞(先行詞)+主語+動詞 ~〉の形になっているときは, 名詞と主語の間に目的格の関係代名詞が省略されていると考える。 Who is the person that you respect? 〈先行詞+目的格の関係代名詞+主語+動詞〉 Who is the person you respect? 〈先行詞+主語+動詞〉 ⚡〈前置詞+目的格〉のときは省略できない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 関係代名詞は前置詞の目的語にもなる。here のかわりに関係代名詞 which が用いられている。 • 関係代名詞が目的格である場合には口語では省略されることが多い。
<p>③ 所有格の関係代名詞 whose</p> <p>☆〈whose+名詞〉: whose は先行詞を受けて, 接続詞+所有格の代名詞の働きをする。 ・〈whose+名詞+動詞 ~〉 ⚡ be 動詞の場合が多い。 The girl whose hair is long is Betty. (その髪の毛の長い少女はベティです。) ・〈whose+名詞+主語+動詞 ~〉 ⚡〈whose+名詞〉が後ろの動詞の目的語。 The mountain whose top you can see over there is Mt. Fuji. (頂上がむこうに見える山は富士山です。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • whose は先行詞が人の場合・人以外の場合どちらでも使うことができる。
<p>④ that の特別用法</p> <p>(1) 最上級の形容詞, the first, the last, the only, the same などが先行詞につくとき。 This is the <u>most interesting book</u> that I have ever read. 最上級の形容詞+先行詞 (これは私が今まで読んだ中で最もおもしろい本です。)</p> <p>(2) all, every, any, no などが先行詞につくとき。 (3) all, everything, anything などが先行詞になるとき。 ⚡上記の場合でも, 「人」が先行詞で主格の場合は, who もよく使われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 先行詞に疑問詞の who, what がくるときは, 必ず関係代名詞 that を用いる。Who who ~? のようにならないようにする。 Who that knows her can believe her? (彼女を知っているものならだれが彼女を信じていることができるだろうか。)
<p>⑤ 関係代名詞</p> <p>☆ what(= the thing(s) which) : 「~(する)もの, ~(する)こと」の意味。 ・〈what+S+V〉= 「…が~するもの[こと]」 ・〈what+V+C〉= 「~であるもの[こと]」 What he said was right. (彼が言ったことは正しかった。) ⚡ what を含む慣用表現 what is called, what we[you, they] call 「いわゆる」 例 He is what is called a walking dictionary. (彼はいわゆる生き字引です。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 関係代名詞 what 先行詞の意味も含む関係代名詞。よって, 先行詞は不要。 what little money (I had) 「なけなしのお金」 what is 比較級 「さらに~なことには」